

科目名	担当教員	授業方法	授業形態	履修者数	履修学年
J502-総合日本語	中川 健司先生	実習・実技	遠隔：リアルタイム・オンデマンド併用	10名前後	留学生 (履修年次の指定なし)

【授業内容】

この授業は、自国や自分自身のことについて、他国との比較を通して捉え直し、自分の考えを日本語で発信できるようになることを目的としています。

【授業の実施方法】

同科目は、教科書として『新訂版トピックによる日本語総合演習上級』（安藤節子他著 スリーエーネットワーク）を使用しています。同書の内容は、「食文化」「仕事」「ジェンダー」等のトピックごとに、文法練習、読解、データ提示からなっています。

文法練習については、文法項目を説明する動画をオンデマンドで配信し、履修学生はそれを見て、文法問題を行い、Googleフォームで提出します。リアルタイム Zoom 授業では、学生の提出した課題を、全体で共有しながら、意味や用法について確認します。

読解については、読解の本文を音読したものをオンデマンドで配信し、履修学生はそれを聞きながら内容理解の問題を行い、Googleフォームで提出します。読解についてもリアルタイム Zoom 授業では、学生の提出した課題を、全体で共有しながら、意味や用法について確認します。

また、教科書で扱われているテーマに関連した日本の新聞記事の内容を発表し、それについて Zoom のブレイクアウトルームでグループごとに議論するという活動も行っています。その場合も、そこで出た意見を、グループごとに Google スプレッドシートに記入するようしており、他のグループの意見も参考にしながら議論を行えるよう工夫しています。

授業後にそれぞれの発表について、LMS のアンケート機能を使って、コメントするという課題も課しています。

【授業準備のポイント・工夫した点】

通常の学期は、同じ教室で授業を受講しているため、その意味で一緒に勉強しているという一体感は自然に醸成されてきますし、出身が異なる留学生たちがお互いの文化について知るといことも期待できるのですが、昨年来、日本に入国できていない者が一定数おり、なおかつオンラインで授業を行わなくてはならないという制約がある中で、リアルタイムで他の学生とのインターアクションが期待できる時間はとても重要だと考えています。そこで、リアルタイムでの活動時間を有効に使うことができるように、オンデマンドの部分では、学生が自分のペースで学習できる内容のものを割り当てるようにしました。具体的に言うと、

文法練習、読解教材の語彙学習、読解の精読といったものです。これらのものは、課題をするのに必要な時間が学生によって大きく異なるものです。

また、学生全員がテーマに関する新聞記事について発表し、その内容に関するディスカッションを行うという活動を行っていますが、その際には、発表からディスカッションにスムーズにつながるように、発表部分は、録画ではなく、リアルタイムにしています。発表に関しては、事前に提出させたレジュメを LMS にアップロードし、ほかの学生が発表の内容を事前に知ることができるようにしています。

発表、ディスカッションを受けて、その発表へのコメントするのですが、それについては時間をかけて考えてほしいので、授業後に LMS のアンケートに提出してもらっています。

なお、授業の形が毎週同じであるわけではありません。例えば、各テーマの最初の回には、学生に家族や友人などの身近な人（日本人でなくても構わない）にインタビューをしてもらい、その結果を基にグループでディスカッションをするという活動を行っています。例えば、食文化のテーマを扱ったときには、オンデマンドの活動として、家族や友人など「自分の国の国民食を一つ選ぶとすればそれは何か」「そう考える理由は何か」「その料理（食べ物）をどのぐらいの頻度で食べるか」「あなたの国で最もよく食べられている外国の料理（食べ物）は何か」「日本の国民食を一つ選ぶとしたら、それは何か」といった質問をし、リアルタイムのクラスではその回答を基にグループでディスカッションをし、「国民食とは何か」ということについて考えてもらう活動をしました。通常は、日本人の人にインタビューをするという活動をしているのですが、日本に入国できていない学生が一定数おり、それが難しい現状を踏まえ、この形にしています。通常の対面式の授業の時と全く同じというわけではないですが、「自国や自分自身のことについて、他国との比較を通して捉え直す」という授業の目的につながる活動ができているのではないかと思います。